

星野焼 現代の陶工

源太窯 山本 源太

Genta S17年(1942)鳥取県出身 昭和44年開窯



20才の時より伊勢市神楽の窯で作陶を学ぶ。小石原で古星野の茶壺と運命的な出会いがあり、80年間途絶えていた星野焼を再興することとなる。古星野の研究をもとに、幻の夕日焼色の再現に成功。茶器、食器、花入の他、天体をイメージした作品もある。



夕日焼壺

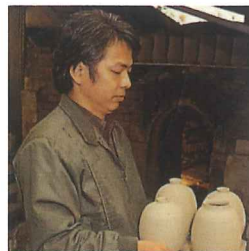
十筆窯 丸田 修一

Jugomori S26年(1951)佐賀県出身 昭和50年開窯

星野村の豊かな自然や古陶星野焼、村民との出会いにより1975年24才の時開窯。茶壺にヒントを得た窯変櫛目や、古木の桜をモチーフにした、花文象嵌(かもんぞうがん)を特徴とし、シャープで温もりのある作品づくりに励む。

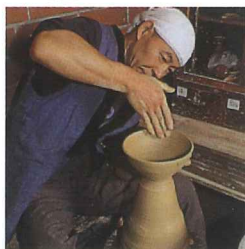


窯変櫛目壺



錠光窯 山本 拓道

Joko S25年(1950)星野村出身 平成元年開窯



山本源太氏に師事。父が広島から持ち帰った原爆の火、現在星野村で燃え続けている平和の火を窯の種火にして、耳納高原に開窯。星野の土に耳納高原の茅、茶、松、杉、楓、栗、銀杏など自然の草木の灰を釉薬として、星野川の石をモチーフにしたランプシェードなどオリジナル리티に富んだ作品づくりに力を入れている。



ランプシェード

—古陶 星野焼展示館までのアクセス—



◆マイカーご利用の場合
八女I.C.より約50分 杷木I.C.より約50分

◆バスご利用の場合
JR羽大塚駅より(八女市乗換え)約90分

— 周辺施設の紹介 —

星の文化館



九州最大100cm反射望遠鏡と65cm反射望遠鏡を備えたツインドームの天文台です。八女市星野村の美しい星空の中で宇宙の神秘や広がりを感じることができます。

茶の文化館



八女の特産「お茶」を学び、味わい、体験できる施設です。「八女伝統本玉露」の「しずく茶」とともにゆっくりとした時間を過ごすことができます。

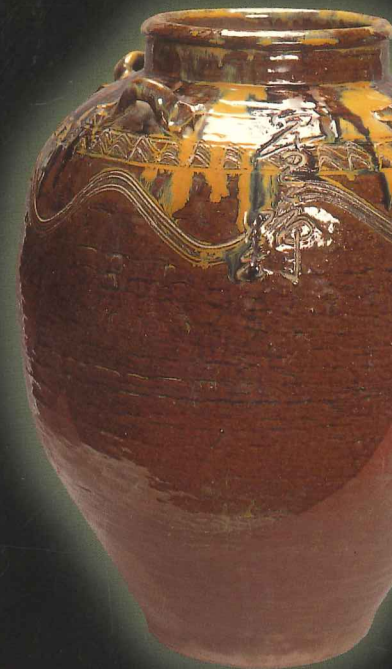
古陶 星野焼展示館

〒834-0201
福岡県八女市星野村千々谷
☎0943-52-3077

開館時間: 9:00~17:00

休館日: 毎週火曜日・年末年始

古陶 星野焼 展示館



星野焼の由来

星野焼の興りは、はっきりとした資料がなく詳しくはわかりませんが、江戸時代(元文2年・1737年)に本星野仙頭与次右衛門の願いにより、久留米藩の御用窯として認可を受けています。八女茶の産地という土地柄、茶壺・茶器などの名品が数多く産みだされました。

明治維新を機に、御用窯に対する藩からの庇護はなくなり、経営も難しくなり名工・森松安次・勢蔵父子を最後に星野焼は一旦途絶えてしま

いました。その後、昭和44年に山本源太氏によって再興され、以降九田修一氏、山本拓道氏が開窯。現在では八女市を代表する美術工芸品として高く評価されています。

中でも、星野焼で美しいと言われる色があります。茶を注ぐと夕日色の輝きが出ることから、夕日焼と呼ばれ親しまれています。

よつみつきは ちゃつぽ
四耳付葉茶壺
(江戸時代中期)

確かな技術に裏打ちされた、どっしりと大きく、丸みをおびた形は見る者に安心感を与えてくれます。



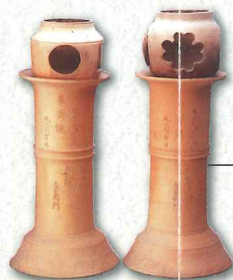
小さな ちゃつぽ
船茶壺 (江戸時代中期)

揺れ動く船の中で割れないように背は低く、底は広く、全体に分厚く丈夫に造られた茶壺の変種。



とうろう
燈籠一对 (江戸時代中期)

正面にある年号と奉納者、作者名から星野焼の起源が明らかになったという歴史的に重要な逸品。



あめゆう
飴釉うんすけ
(江戸時代後期)

西洋なしのようなユーモラスな形の「雲助」(うんすけ)は醤油や酢を入れたり、酒を醸すのに使われていました。



とって つきすいちゅう
取手付水注 (明治時代初期)

オリエント文化の香り漂う水注で、肩の辺りに名工・森松勢蔵のサインが刻まれている珍しい逸品。



1730	星野村庄屋高木与三右衛門の二男与次右衛門、同村本星野名に分家して仙頭となる。
1737	高木与次右衛門、願いによって御用窯の認可を受ける。
1738	高木与次右衛門、室山神社に「素焼き燈籠一对」を奉納する。
1742	高木与次右衛門の二男 宇平次生まれる。後に十竜名に分家して窯を開く。
1778	与次右衛門没
1789	宇平次、藩御内用の品々作陶出精の功によって、3人扶持を受け帯刀を許される。
1803	この時期、星野焼は名実ともに最盛期を迎える。
1811	良八 出生。良八は後に陶物師として扶持を受け、名を円居と改め重英とも称した。
1812	十竜窯初代 宇平次 没
1813	森松善助の子 安次出生。良八のもとにあって陶技に練達し、藩御用窯の最後を飾る名工となる。
1848	安次の子 勢蔵出生
1868	廃藩置県によって御用窯は廃止となる。
1873	安次は息子勢蔵とともに豊岡村今(現黒木町)に移住し、今村焼を興す。
1880	安次没後、勢蔵は星野村に戻り、十竜と本星野に窯を築く。
1894	星野焼が廃絶する。
1924	勢蔵 没
1969	山本源太、本星野にて源太窯を開窯し星野焼再興をめざす。
1975	丸太修一、池の山にて十竜窯を開窯する。
1989	山本拓道、耳納高原にて鋭光窯を開窯する。
1992	古陶 星野焼展示館オープン。
1999	星野焼フォーラムを開催する。

現代窯元の力作を展示・即売



売店コーナー

現代の星野焼、源太窯・十竜窯・鋭光窯の三窯元の作品を展示・販売いたしております。星野焼に息づく伝統と匠の技を今の生活に活かしてみたいいかがですか？

古陶 星野焼展示館

星形の屋根、陶窯の煙突を模した外観―。杉林に囲まれたそんなユニークな建物が「古陶 星野焼展示館」です。静かに湧き水をたたえる屋内庭園、それを囲む八角形の回廊式ギャラリーには、江戸時代中期以降の星野焼の逸品の数々が展示されています。土と炎が織りなすその神秘的輝きを、心ゆくまでご鑑賞ください。

平成9年第9回福岡県建築住宅文化賞(奨励賞)受賞

